

令和5年度



発行責任者 県中学校教研究会美術専門部長

國島 篤

事務局 福島市蓬萊町5丁目14-1

福島市立蓬萊中学校

近藤 憲人

福島県中学校教育研究会美術専門部

部長あいさつ

県中教研美術専門部長 福島市立福島第四中学校 國島 篤

新型コロナの5類移行により、本年度は本会にもコロナ以前の活動が戻ってまいりました。この3年にわたり、夏美術ゼミナールの中止、県研究協議会は書面やオンラインでの開催、県秀作審査会においても半数の先生方には審査会場の外で待機して頂くなどの対応となりました。普段の授業においては、オンラインでは難しい美術の授業のあり方に頭を悩ませた先生も多かったものと思います。今年度はいわき市立草野中学校において参集による県研究協議会が開催されました。研究副主題「多様な価値観を育む指導の工夫」のもと、生徒たちが互いの表現を認め合いながら制作を楽しむ姿が見られました。参会された先生方も生徒と作品を前に様々な話をされ、研修を深めておりました。作品があるだけでそこには人と人とのコミュニケーションが生まれます。これは美術の素晴らしさの一つでもあります。今後も顔を合わせて研修できる機会を大切に、よりよい授業づくりに励んでいきたいと思ひます。

県大会授業を終えて

いわき市立草野中学校 仲田 薫

この度の授業を構想するにあたり、子どもたちの真剣な表情を引き出し、指導者がそれと向き合う場面を大切にしたいと考え、発見や気づきが多いメディアはがし凹版画に取り組みました。

いわき支部では今年の夏、いわき市立美術館の協力のもと、発案者・小作青史氏の愛弟子・佐竹邦子先生の指導による材料体験「木版リトグラフ～多色刷り～」を行いました。とても楽しいひとときとなり、この「楽しさ」を生徒と共有したいという思いで実際の授業公開に臨むことができました。また、材料体験で制作した内郷第一中学校の菊池美喜子先生の作品が、令和6年1月5日から開催される市立美術館主催「小・中学生版画展」のポスターに採用され、大きな刺激となり、人と人との交流が指導力向上の原点だと再確認できました。

今回、授業研究をする機会をくださいました県中教研の先生方や、毎年活用させていただいている「美術の学習Ⅱ・Ⅲ」の「目、鼻、口、顔の明暗を描く」を編集いただいた「美術の学習」編集委員の皆様、そして、研究計画に従い2年以上支えてくださっていたいわき支部の先生方に感謝申し上げ、貴重な経験を今後活かしていきたいと考えています。

令和5年度 県中教研美術専門部組織

美術部専門部役員

Table with 3 columns: Position (部長, 副部長), Name (國島篤, 横田勝秋, etc.), and School (福島四中, 郡山四中, etc.).

事務局

Table with 3 columns: Position (総務, 庶務, 会計), Name (近藤憲人, 岡崎裕邦, etc.), and School (蓬萊中, 吾妻中, etc.).

常任研究員

Table with 3 columns: School (福島, 郡山, etc.), Name (浅野太平, 廣川豪, etc.), and School (岳陽中, 附属中, etc.).

美術専門部各支部長

Table with 3 columns: Branch (福島, 伊達, etc.), Name (國島篤, 中島洋幸, etc.), and School (福島四中, 伊達中, etc.).

福島県生徒造形作品研究会 および秀作審査会に参加して

郡山市立安積第二中学校 渡部しのぶ

2年振りに県造形審査会へ参加しました。今年度も県内各地の中学生の、色も大きさも、技法も様々な作品が集まってきました。「この作品は〇〇地区の作品だな」「この作品は〇〇先生の指導だな」と、作品の地域性や指導者の専門性、得意分野が見え、また、作品の完成度も年々高くなっているように感じました。

私が特に気になったのは、流木の作品と彫刻の作品です。今年の流木の作品には、分解した松ぼっくりの鱗片が1枚1枚貼り付けられており、気の遠くなるような細かい作業に集中して取り組んだであろう生徒の姿が目に見えました。また彫刻の作品は、大きく高さもあり、躍動感が感じられる作品が多かったです。塗装方法の工夫がされている作品もあり、どのような手順で作業したのか疑問に感じました。

審査の途中で、どのような意図で制作させたのか、どのような材料や道具を使っているのか、技法についてなど、指導者の話を聴けるのも審査会の魅力です。私たち美術科の教員は、広い県内のあちこちに散らばって活躍していますが、人数が少ないためか、他地区の先生をなぜか知っていたり、親しかったりと、他教科の先生方とは違った特異性があると思います。また今年度の審査会では、初めてお会いする若い先生方も多くいらして、世代交代を感じました。

これからも多くの先生から刺激をいただき、生徒のために授業を展開していきたいと思っています。

立体の部 審査を終えて（立体の部審査担当）

泉崎村立泉崎中学校 田上 陽子

県審査会の終了は、ホッとする気持ちと同時に先生方のご指導やその作品に触れ、次年度への構想が湧く時でもあります。今年度も題材開発が工夫され、継続的に進化させ、新素材を取り入れ、そしてその中で自己表現すべく素材と格闘し、楽しむ生徒の姿が想像される作品に出会うことができました。

彫刻領域では、観察により丁寧に作り込まれた作品、質感にこだわりそっくりに作られた作品など、多様な表現が見られました。構想表現では作者の世界観に引き込むような迫力があり、内容や大きさから、見通し力の必要性を感じました。また、動物像に関わる環境を撮影した写真と共に展示した作品もあり、ICT活用が話題になりました。彫刻には、量感や動勢、質感、骨格バランスや筋肉のつき方など、実感を伴って学ばせたい要素があります。人物像の中には、筋肉や骨格を丁寧に観察して粘土付けされ、小さいながらも迫力のある作品が見られ、感心しました。何を学ばせるか、彩色の華やかさには目を惹かれますが、中身の詰まった制作に臨ませたいです。

工芸領域では、民藝の視点、相手を思う視点、条件の中で挑戦する職人的な視点などをベースに、素材のよさを体験的に活かした取り組みが見られました。草編みの虫籠、指導者の専門性が生かされた革工芸、螺鈿、鑄造、伝統的工芸職人の仕事観を同時に学ぶ陶芸体験など、生涯における工芸への出合わせについて考える機会となりました。端正込めた作品と生徒が共にあることを通して、この世にひとつの作品のよさが味わえるように成長できることを願います。

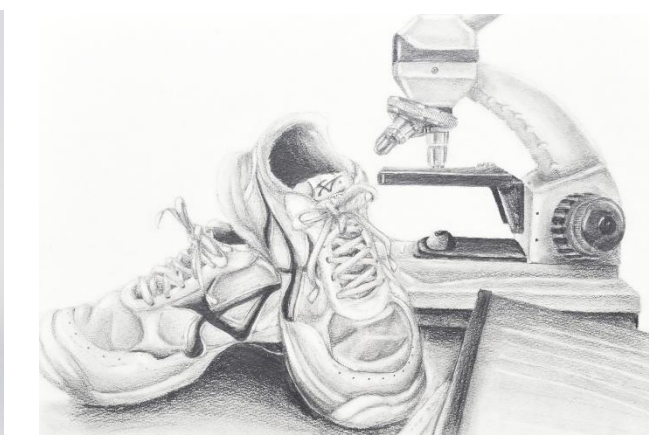
平面の部 審査を終えて（平面の部審査担当）

郡山市立行健中学校 大橋 宏記

審査進行をさせて頂き毎回思うことは、県の美術の先生方が毎年集まれる研修があるのはとても貴重であり有意義なことだということです。私の現役年数も片手で数えられる程ですが、この会にはいつもよい刺激を頂いています。コロナで混乱した教育現場で、人の集まりはリモート対応で簡便化を図る流れもありましたが、このような研修は作品を通して美術教師同士が面と向かって語り合う大切な会であり、多忙な中でも残していかなければならないと思いました。

絵画審査での感想の中にiPadを活用した実践が増えてきたことがあります。写真を当たり前前に描写の土台にできることは隔世の感があります。その影響で、鉛筆自画像がかなり多く見られました。じっくり描く良さがありますが、生徒に何を表現させたいのか、指導者として生徒の想いや工夫が展開できる設定が必要かと思いました。デザインにおいては、写真単独の作品出品があり、これもiPadの導入がきっかけであると思います。各教育委員会でアプリの導入が進めば、デザイン分野で大いに活用が進むと思われます。教師よりも一部の生徒の方がはるかに使いこなせると思います。また、造形展でプリント作品と着色作品を分離して審査するというのも検討課題になるかも知れません。新しい楽しみが増えたような審査会でした。





令和6年度の研究について

美術部総務 福島市立蓬萊中学校 近藤 憲人

1 研究主題

「多様な見方や感じ方を深め、心豊かに創造する力を育む造形活動はどうすればよいか。」

- 令和4年度副主題
「造形的スキルを身に付けさせる工夫」
- 令和5年度副主題
「多様な価値観を育む指導の工夫」
- 令和6年度副主題
「美術の広がり」と自己実現」

2 これまでの研究経過

研究主題「多様な見方や感じ方を深め、心豊かに創造する力を育む造形活動はどうすればよいか。」において、造形を豊かにとらえる多様な視点をもてるように「共通事項」を実感的に理解させることと、「感性」を磨き、働くものにしていくことを主眼に、造形活動を通してよりよい社会と豊かな人生を創っていくことにつなぐため、美術のよさや強みをしっかりとらえた研究が進められた。

2年次の副主題「多様な価値観を育む指導の工夫」では、経験によって身に付いた「造形的スキル」を活かして生徒一人一人が自分の思いを表出するために、必要な情報を取り入れ伝え合うICTの活用を含めた多様な価値観を育むための指導の工夫など、各支部において題材や指導過程の工夫・深化への取り組みが進められた。

いわき市立草野中学校で行われた県大会では、自画像をメディウム剥がし凹版画で制作する授業が提供された。造形的スキルを効果的に活用させた多様な表現のよさを認め合う活動を通して、多様な価値観を育む指導の工夫が確認された。また、県中学校生徒造形作品研究会及び秀作審査会では、表現技法を駆使し、主題性を重視した斬新な作品が見られ、多様な価値観の理解のもと、自他の作品などに表れている創造性を尊重する態度の形成を図ろうとする先生方の取り組みが伝わってきた。

3 令和6年度の研究の内容と方法

令和6年度は、副主題「美術の広がり」と自己実現のもと、生活や社会の中の多様な美術や美術文化と豊かに関わる態度を育成するために、多様性を原動力に、豊かな感性や創造性を育む学びを継続させ、造形活動を通して自分としての意味や価値をつくりだす喜びを実感させ、地域や社会など外部へアウトプットする美術活動を工夫されたい。

これからの社会を生きる子どもたちに生きて働く力を身に付けさせるために、日々の小さな「自己成長の喜び」の積み重ねを大切にし、他人も自己も尊重できる精神を育み、社会への発信や奉仕ができるようにさせたい。そのためには、教師自身が様々な世界と関わろうとするエネルギーや交流のための知識をもっていることが重要である。未来への憧れをもたせ、活動の有用感を引き出し、自己挑戦に向かわせる指導過程や指導方法の工夫を図りたい。

(1) 研究内容

- ① 活動の有用感を引き出す題材の工夫について
- ② 題材における指導計画の最適化について
- ③ 自己実現を促す様々な支援について
- ④ 地域や社会との関わりの可能性について
- ⑤ 生徒の変容の把握と評価の工夫について

(2) 研究方法

- ① 生徒の実態、地域・社会のニーズの把握
- ② 様々な実践事例の収集・分析
- ③ 美術ゼミ等研修や美術教師同士の情報交換
- ④ 関係機関や地域の人材との連携
- ⑤ 生徒の活動の記録方法の工夫・蓄積

4 参考資料

- 中学校学習指導要領 (文部科学省)
- 中学校学習指導要領解説美術編 (文部科学省)

令和6年度中教研美術部事業計画(案)

実施時期	事業(会議名等)	場所等
4月	各支部専門部総会	各支部
5月中旬	県専門部総会 県主題研修会	福島市
5月下旬	県主題研修会報告会	各支部
7月下旬	支部研究協議会	各支部
8月2日(金)	美術ゼミナール	郡山市
10月4日(金)	県研究協議会	福島市
10月下旬	県研究協議会報告会	各支部
11月下旬まで	地区造形作品審査会	各支部
11月29日(金)	県造形作品研究・審査会	郡山市
1月～2月	支部専門部長会	郡山市
2月末日まで	部報発行	福島市